

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和4年3月号



【日高振興局】 3/17 ウスイエンドウ短節間新品種「光丸うすい」現地検討会を開催

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～海南・下津地域における新規就農者の確保に関する検討会を開催～	
2. 地域農産物や農産物を使った料理レシピを展示で紹介	
3. 普及活動実績報告会を開催	
II 那賀振興局	3
1. 岩出市生活研究グループ協議会が『みそづくり伝承塾』を開催！	
2. 紀の川市農業士会役員総会&研修会を開催	
III 伊都振興局	4
1. 高野山麓農産物産地化協議会総会の開催	
IV 有田振興局	5
1. シシトウガラシ「ししわかまる」の定植に向けた生産者への説明会の開催	
V 日高振興局	6-8
1. 「まりひめポスターコンテスト」受賞者へ表彰状が授与されました	
2. ウスイエンドウ短節間新品種「光丸うすい」現地検討会を開催	
3. プロジェクト発表を動画撮影へ（4Hクラブ）	
VI 西牟婁振興局	9-10
1. ビギナー向けミカンのせんだい研修会を開催	
2. 分枝系ストックの育苗省力化試験結果	
VII 東牟婁振興局	11
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～イチゴハダニ類の天敵防除実証ほ調査結果～	
VIII 就農支援センター	12
1. 農業体験研修の実施	
IX 経営支援課	13
1. 山本宗一郎氏（みなべ梅郷クラブ）が農林水産大臣賞を受賞	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～海南・下津地域における新規就農者の確保に関する検討会を開催～

3月16日、JAながみね本店において「海南・下津地域における新規就農者の確保に関する検討会」を開催した。当日は海南市役所、JAながみね、経営支援課、海草振興局農業水産振興課の担当職員が出席。当課からは新規就農者の確保状況及び普及指導計画に基づいた今年度の新規就農に関する取組実績について説明を行った。また、経営支援課から「わかやま版新規就農者産地受入体制整備支援事業」の紹介があり、その後、海南市における新規就農者確保に関する取組や産地受入協議会の設立について意見交換を行った。出席者からは「関係機関が一体となった新規就農者の受入体制整備や就農後のサポートが必要」との意見が出され、令和4年夏頃までに産地受入協議会を設立することを申し合わせた。

当課では、今後も産地受入協議会設立に向けて関係機関と協議を重ねていく。



産地受入協議会の設立について意見交換

2. 地域農産物や農産物を使った料理レシピを展示で紹介

農業水産振興課では地産地消の推進を目的に、3月1日～14日の期間に、海南 nobinos（ノビノス）のギャラリーにおいて、地域の農産物や和食地方生活研究グループ連絡協議会から提案のあった料理レシピなどの展示を行った。同時に近畿大学生物理工学部の仁藤伸昌先生とフルーツを楽しむ Mucha こと新谷睦子氏の両名が、カンキツを中心とした果物の展示を行った。

海南 nobinos の図書館に隣接していることもあって、子供連れの方が多く訪れ、野菜・果実の名前あてクイズやすごろくで遊ぶ姿がよく見られた。また、レシピのリーフレットは用意した分がなくなるものもあったことから、多くの方に興味を持ってもらえたと思われる。

当課では、今後も地産地消を推進していきけるような取り組みを行っていく。



料理レシピ展示の様子



農産物等展示の様子



カンキツ展示の様子

3. 普及活動実績報告会を開催

3月18日、海南 nobinos において、令和3年度普及活動実績報告会を開催し、和海地方総合農政推進協議会（事務局：農業水産振興課）の運営委員と普及指導協力委員ら関係者17名が出席した。

初めに、当課職員から重点プロジェクト1課題、一般課題2課題、その他普及活動について発表した。その後、出席者で地域課題、今後の取り組み等について意見交換を行った。出席者から『匠の技 伝道師』の研修時以外でも、電話や訪問があり興味を持ってもらえた、「種ショウガの栽培法を確立してほしい」などの意見があった。

当課では、頂いた意見を踏まえて、来年度も関係機関と連携し、普及活動に取り組んでいく。



普及活動実績報告会

Ⅱ 那賀振興局

1. 岩出市生活研究グループ協議会が『みそづくり伝承塾』を開催！

3月28日、岩出市生活研究グループ協議会（会長：田中典子氏）は、岩出市民を対象とした『みそづくり伝承塾』を市内3か所で開催し、合計65人が参加した。

例年1月に開催される本伝承塾だが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け延期となり、感染状況が落ち着いた3月の実施となった。開催にあたり、本協議会では密にならないよう参加者一人一人に会場入りの時間を設定し、講師も最小限のグループ会員で対応するなど、感染症対策を徹底した。

会場に入った参加者は、大きなボウルに持参した煮大豆、グループ会員が仕込んだ麴、塩を加えて混ぜ合わせた後、ミンサーで挽いて団子状にまるめ、各自の容器に空気が入らないように詰めて完成させた。

参加者からは「家では大豆を潰す作業や器具の片づけなどが大変で、手作りみそのハードルは高いが、伝承塾に参加すると気軽に手作りの味が楽しめるのでありがたい」「いつもこのお味噌を食べているので、延期してでも開催してもらえて良かった」といった声が聴かれた。

農業水産振興課では、今後も生活研究グループと連携し、地域における食育活動を推進していく。



みそ伝承塾

2. 紀の川市農業士会役員総会&研修会を開催

紀の川市農業士会（会長：妹背克紀氏、会員：110名）は、3月29日に役員総会と研修会を開催した。引き続きコロナ禍での開催となり、出席者を役員に限定し対応した。総会に先立って農業水産振興課崎副主査から「農地中間管理事業と遊休農地リフォーム化支援事業」と「管内における取組状況」について説明を行った。

役員からは「農地の上部の付帯設備は対象となるのか」「条件の良いところを借りるにはどうしたらよいか」などの質問や、「借りようとしているが、持ち主が制度を活用してくれない」といった意見が出された。

農業水産振興課では、地域農業者のリーダーの集まりである農業士会に対し、今後も会員の要望を取り入れながら会運営を指導していく。



研修会の様子

Ⅲ 伊都振興局

1. 高野山麓農産物産地化協議会総会の開催

3月22日、橋本市教育文化会館において高野山麓農産物産地化協議会（会長：北岡慶久氏、構成委員：橋本市、橋本市農業委員会、JA紀北かわかみ、農業者、農産物販売業者、伊都振興局、オブザーバー：かつらぎ町、九度山町、高野町）総会を開催し、委員及び関係者が22名出席した。

当協議会では、高野山麓精進野菜としての栽培基準を設け、地元野菜のブランド化に取り組んでいる。

総会では今年度の活動報告があり、その後、和歌山大学観光学部 教授 藤田武弘 氏、同大学院 短期履修生 今井陽子 氏から、今年度高野山内の宿坊を対象に実施した食材調達における地産地消の意向調査の結果について報告があった。委員からは、「高野山の宿坊で使用する野菜の量や金額は？」等の質問があった。

当課では、今後も関係機関と連携して協議会活動を支援していく。



総会

IV 有田振興局

1. シシトウガラシ「ししわかまる」の定植に向けた生産者への説明会の開催

J Aありだ野菜部会ししとう部門(部門長：宮崎正嗣氏)では、「ししわかまる」の作付を控えた3月29日に管理のポイントについて説明会を開催した。

「ししわかまる」は、慣行の「葵ししとう」に比べて草勢が弱いので、老化苗を定植すると草勢が大幅に低下し、収量や秀品率が低下する。

草勢を強めに維持するためには、根張りを良くすること、長期にわたる栽培期間中に草勢を落とさない管理が重要であり、今回、定植時から生育初期の管理のポイントについて、栽培希望農家に説明した。今後は、昨年現地で実証した整枝誘引栽培を推進していく予定であり、農業水産振興課では、J Aと協力して「ししわかまる」の安定生産にむけた栽培指導を行っていく。



説明会の様子

V 日高振興局

1. 「まりひめポスターコンテスト」受賞者へ表彰状が授与されました

3月2日、県いちご生産組合連合会（会長：壺井久仁樹氏）が実施した「まりひめポスターコンテスト」の最優秀賞 日高川町立笠松小学校 林夏希さん（小学6年生）への表彰状の授与が行われた。

このコンテストは県内の小学生を対象に、「まりひめ」のPR用のポスター図案を募集するもので、最優秀賞1点と入選6点（低学年の部3点、高学年の部3点）を選出、最優秀賞の絵をポスターに採用する。

2年目となる今年度は県内12校から合計237点の応募があり、うち日高地域管内からは8校、1～3年生（低学年）の部82点、4～6年生（高学年）の部18点の合計100点の応募であった。審査の結果、日高管内からは、最優秀賞1点と入選5点が選ばれた。

当日は、笠松小学校の校長室で贈呈式が行われ、壺井会長からは、「応募された作品はどれも素晴らしく、審査するのに大変苦労しました。その中で、皆さん3名の作品が選ばれました。」とあいさつを行った後、最優秀賞の林さんと同校での入選者である田村結菜さん（小学5年生）、林メイさん（小学6年生）に表彰状と副賞のイチゴが贈呈されました。受賞者からは、「いちごが貰えて、大変うれしい。」と笑顔での感想が寄せられた。

笠松小学校校長 楠本勝洋氏からは、「昨年も賞を頂いて、副賞のいちごをもらいました。生徒たちは、『今年もいちごを頂いて、みんなで食べよう！』と頑張って絵を描いていました。受賞者が3名と聞いて大変うれしいです。」と感想を述べていた。

連合会では、最優秀賞をとった林さんの作品をもとに「まりひめ」のPRポスターを作成し、連合会の各会員が自身の取引先や販売先等に配布して「まりひめ」の消費拡大に繋げて行くこととしており、当課としても連合会と連携し、「まりひめ」の産地強化に向けた支援を継続する。



最優秀賞 林 夏希さんへの表彰状授与



受賞者全員で記念写真

左から田村結菜さん 壺井会長 林夏希さん 林メイさん

2. ウスイエンドウ短節間新品種「光丸うすい」現地検討会を開催

ウスイエンドウは日高地方の主要品目であり、露地やハウスでの栽培が盛んに行われ、県下の中心産地となっている。

一方、生産者の高齢化が進む中で、主力品種である「きしゅううすい」は、施設栽培では草丈が高くなり、収穫作業等に労力がかかることが課題となっている。

このことから、農業水産振興課では、「きしゅううすい」の突然変異株として当地域で発見された節間が短く、草丈の低い短節間系統の有望品種「光丸うすい(令和4年3月15日品種登録)」の導入による省力化を目指し、本品種の現地適応性の検討や種子安定供給への協議等、地域への普及推進に取り組んでいる。

3月17日、日高野菜花き技術者協議会(会長：濱田光弘氏、会員：27名、構成機関：JA紀州、暖地園芸センター、農業水産振興課等、以下協議会)の会員7名で現地検討会を開催した。検討会では、みなべ町内の「光丸うすい」試験栽培ハウス5園地を巡回し、作型やほ場の違いによる生育状況を確認するとともに、本品種の現地導入に適した作型や栽培方法、今後の普及推進についての意見交換を行い、会員間の情報共有を図った。

なお、日高管内では、令和3年作ではみなべ町を中心に11名の生産者が試験栽培に取り組んでおり、栽培面積は40aとなっている。

会員からは、「巡回した園地の生産者は、「光丸うすい」を上手につくりこなしている。これならば、地域への普及が期待できる。」との感想が聞かれた。

今後は、協議会と連携し、展示ほの設置や試験栽培農家での栽培状況調査等により、「光丸うすい」栽培技術の確立と栽培マニュアルの作成に取り組む。



試験栽培ハウスでの現地検討会



「光丸うすい」の生育状況を確認する協議会員

3. プロジェクト発表を動画撮影へ（4Hクラブ）

新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者が一堂に会するイベントの開催が難しく、プロジェクト発表の場である青年農業者会議（例年1月下旬～2月上旬に開催）も延期となった。今後も当分はこのような状況が続くことが想定されるため、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：有本雄紀氏）では、オンライン開催に変更となった場合でも対応できるよう、プロジェクト発表動画の撮影に取り組んだ。

日高地方の各クラブにおける発表タイトル及び発表者は下記のとおり。

① 御坊市4Hクラブ（3月25日）

「御坊市4Hクラブ「プロジェクト農園」」（発表者：鈴木溪氏）

② 印南町4Hクラブ（3月24日）

「印南の農業をひろめ隊～SNS発信による挑戦～」（発表者：尾曾匠氏）

③ みなべ梅郷クラブ（2月17日）

「守れ！ニホンミツバチ 保全大作戦！」（発表者：中井貴章氏）

発表者らは慣れないZoomの取り扱いに戸惑いながらも、普及指導員の支援のもと録画に取り組み、規定の時間内に収まるよう発表動画を作成することができた。

コロナ禍であっても活動を縮小するばかりでなく、オンライン化にうまく適応しながら前向きな活動展開につなげられるよう、今後も支援を行う。



発表動画撮影に取り組むクラブ員と支援する普及指導員

（左：御坊市4Hクラブ、中央：印南町4Hクラブ、右：みなべ梅郷クラブ）

VI 西牟婁振興局

1. ビギナー向けミカンのせん定研修会を開催

農業水産振興課は、農業を始めて3年目ぐらいまでの農業者を対象に、ミカンのせん定研修会を3月3日に上富田町岡のミカン園で開催した。

上富田町の地域農業士である井澗正晴氏から、これまで取り組んできた園地改良、理想とする樹形や整枝・せん定の方法について説明を受けた。井澗氏は就農と同時にミカン園を改植し、作業性が良く、高品質な果実が生産しやすいよう改良に取り組んだ。現在も品種更新に係る改植を行う際に、少しずつ基盤整備に取り組んでいる。樹の整枝・せん定では、主枝と亜主枝をバランス良く配置し、養水分の流れを妨げないように、またこれまでの経験から、切りすぎないように数年かけて理想の樹形に近づけることを心がけているとの話があり、参加者は、メモをとりながら熱心に説明を聞いていた。

続いて‘YN26’栽培園に移動し、実際に一人1本の樹をせん定した。前田普及指導員が‘YN26’の品種特性や栽培状況、果実の販売実績などについて資料を基に説明した後、せん定の手順を実演して説明した。参加者はこれまでに聞いた内容を思い出し、切るべき枝かどうか、時折判断に迷いながら最後まで仕上げた。

当課では、果樹産地を担う青年や経験年数の浅い農業者の技術習得を支援するため、農業士等ベテラン農業者の協力を得ながら今後とも研修会等を実施する。



井澗氏からせん定の説明



‘YN26’の樹でせん定実習

2. 分枝系ストックの育苗省力化試験結果

すさみ町、白浜町における分枝系ストック栽培は、播種床に播種後、20日程度(本葉2-4枚時)で仮植床に植え付け、さらに20日程度で本ばに定植する。植え替え時に一度根を切ることで、細根量を多くし、定植後の生育を良くする技術であるが、仮植作業に多大な労力がかかることから、育苗の省力化が求められている。

令和3年度は、セルトレイ(200穴)を活用した育苗方法を導入し、生育や切花長等の切り花品質について、従来の育苗方法と遜色がないか検討した。

1月19日に側枝数調査、3月7日に切り花品質調査を園主及び村畑普及指導員で行った。

調査の結果、定植後の初期生育はセルトレイ区、慣行区ともに同様であったが30株の平均側枝数は慣行区の方が多く、セルトレイ区は摘心の遅れから一部で最下部の側枝が強く発生したため、株当たりの側枝の発生は少なくなった。

また、切り花品質についてもセルトレイ区で切花長、茎径、切花重にばらつきが多く、花穂長は短くなった。

セルトレイによる育苗は、断根処理をしていないことから、慣行区に比べ初期の生育が早かったが、摘心の処理時期が慣行区と同時期となったため、結果的に摘心が遅れ、その後の側枝の生育に影響を及ぼしているものと考えられた。

当課では、引き続き関係機関と連携し、セルトレイ育苗における摘心方法のほか、さらなる品質向上を目的とした底面給水マット利用による断根処理についても検討し、省力化技術の確立を図る。

分枝系ストックにおける育苗方法が側枝数及び切り花品質に及ぼす影響

試験区	播種日	側枝数 (本/株±S.D.)	切花長 (cm±S.D.)	茎径 (mm±S.D.)	切花重 (g±S.D.)	花穂長 (cm±S.D.)
セルトレイ区	9月17日	3.6 ± 1.0	63.4 ± 7.2	7.9 ± 1.7	61.5 ± 39.7	6.8 ± 0.8
慣行区(仮植)	9月14日	5.7 ± 1.3	59.6 ± 4.0	8.2 ± 0.7	46.1 ± 9.9	8.5 ± 0.8

注)側枝数は1月19日に30株調査、切り花品質は3月7日に20本調査

±S.D. : 標準偏差



セルトレイ区



慣行区(仮植)

収穫時の切り花品質

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお莓”産地の体力強化】

～イチゴハダニ類の天敵防除実証ほ調査結果～

3月18日、農業水産振興課は、イチゴの天敵（カブリダニ類）を利用したハダニ類防除実証ほを調査した。

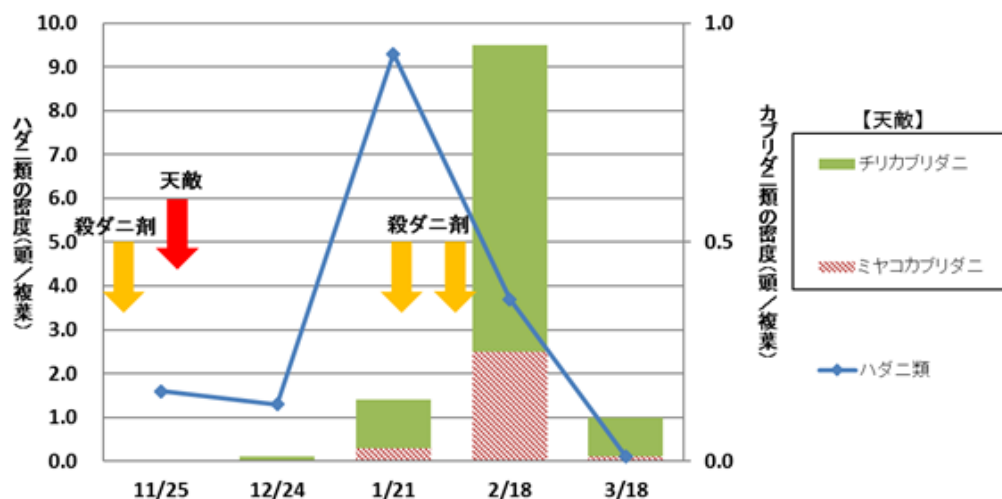
イチゴの主要害虫であるハダニ類は化学農薬抵抗性が発達がしやすく、化学農薬とそれ以外の方法を併用した防除方法の導入が必要となっている。

当日は、今年度最後の調査であり、ハウス内のイチゴ80株について中位の1複葉の天敵とハダニ類の生息数を調査した。

昨年度の実証ほでは予定どおり11月と2月の天敵放飼によりハダニを防除したが、今年度は天敵剤の経費削減を目的として11月26日の1回のみでの天敵放飼とした。調査の結果、昨年と同様に1月中旬まで天敵は増えずハダニが増加したが、1月下旬から2月上旬にかけて天敵に影響が少ない殺ダニ剤との併用により天敵が増加し、春先のハダニ類を抑えることができた。

園主からは、「ここ2年は天敵剤と化学農薬との併用で春までハダニによる被害を抑えられている。今年度は、天敵の1回放飼で春先のダニ数を抑えられたので、R4年度も今回の栽培管理を基にしてハダニ対策に取り組みたい。」との意見があった。

今後は、この結果をもとに現地研修会などを通じて地域に普及を図っていく。また、天敵の1回放飼も状況により推進していきたい。



防除処理によるハダニ類及び天敵カブリダニ類の密度の推移

Ⅷ 就農支援センター

1. 農業体験研修の実施

3月10日、就農支援センターでは、今年度最終となる農業体験研修を実施した。農業体験研修は就農研修の一つで、“農業に興味のある方”、“農業を体験してみたい方”が気軽に受講できる研修である。毎月1回（全12回）の開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、6回の開催数となった。最終の研修では、和歌山市、御坊市、日高川町から各1名（女性2人、男性1人）が参加した。

午前は、「イチゴの収穫・出荷調製」、「トラクターと管理機の取り扱い」、午後は、「ヒマワリのは種」、「スターチスの収穫・出荷調製」を実習し、その後、中谷所長と研修に関する意見交換を行った。参加者からは、「一日、収穫や選別などの体験をしてみてやっぱり体を動かすのはいいな」、「その反面、しゃがんで立つ作業は大変」、「はじめて触る農作業機械の取り扱いは難しいけど、ひとりで動かせるようになりたい」などの感想があった。来年度は、毎月1回の農業体験研修を計画している。



イチゴの収穫



ヒマワリのは種



スターチスの収穫

IX 経営支援課

1. 山本宗一郎氏（みなべ梅郷クラブ）が農林水産大臣賞を受賞

3月2日、第60回全国青年農業者会議がオンラインで開催され、みなべ梅郷クラブ（会長：井出慎太郎氏）の山本宗一郎氏がプロジェクト発表（地域活動部門）で最優秀賞の農林水産大臣賞を受賞した。

みなべ町は日本一のうめ産地であるが、少子高齢化・後継者不足により管理できなくなった園地が耕作放棄地となる問題を抱えている。耕作放棄地は病虫害や鳥獣害の温床となることが心配されるため、山本氏はみなべ梅郷クラブのプロジェクト活動として令和元年から伐採活動に取り組んできた。

活動では、まず大規模なアンケートにより放棄地化の現状や伐採請負のニーズを把握。この結果を受け、クラブで伐採を安価に請負える体制を整えた。活動への評判は口コミで広がり、令和2年には6件、令和3年にも3件の伐採依頼があった。農地としての再生が困難な耕作放棄地には、紀州備長炭の原料であるウバメガシの植樹を行い、一連の活動はJA、農地中間管理機構、森林組合や地元の学生を巻き込んだ取り組みへと発展している。

山本氏は、「活動を通じて、地元農家と密につながるとともに、若手・新規就農者にも思いをつなげることができ、世界農業遺産の継承にも貢献できる」と述べており、今後の活動への意欲を示した。

なお、発表動画は全国農業青年 HP (<https://zenkyo4h.com/>) で視聴できる。



農林水産大臣賞を受賞した山本宗一郎氏

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489